

新版 ECO フットパス・マップ

たきかわを散歩する



たきかわ環境フォーラム

ふるさと 再発見の 愉しみ

古来、人は生活のために野山を歩き、そこに自然に道ができました。しかし、いつしか道は、ただ早く快適に移動できさえすればいい、と思われがちになりました。

フットパスとは、フット（踏み歩く）とパス（道）を組み合わせた言葉。ゆっくり歩くことによるのみ発見できる地域の自然とのふれあいを楽しみ、地域の歴史・文化・産業に触れ、そして地域の人々と交流しながら歩くこと、これがフットパスです。本場イギリスでは、今やすっかり文化として定着しているそうです。

たきかわ環境フォーラムは、滝川という地域にこだわったエコ(地域の)・フットパスを実践してきました。単なるウォーキングではない「ふるさと再発見の愉しみ」を、このマップから皆さんも体験してみてください。

たきかわ環境フォーラム
高橋一美



さんぽのまちむ

「通り名」物語	6
空知川の生き物たち	16
滝川のファーマーたち	23
パニウンクルのエコライフ	25
憧憬の江部乙	30
第一出島川の生態系	32
江部乙とりんごの物語	39
滝川のひつじとジンギスカン料理	45
フットパスは、気まま旅	46

東町エリア

変化する風景の中の、
たゆまない日常を旅します。



市民会館

時間を遡ってみませんか

市内で最も様変わりが激しいエリア。1995年に開通した国道12号バイパスの沿道には有名チェーン店の看板が急増しました。でもそのそばには、滝川の歴史を語るあれこれが静かに息づいているのです。

バイパスに並列する東2号通は、北海道初の「輪中堤防」のなごり。丘の上には歴史的建造物が大切に保存されています。あるいは、数百万年の太古に栄えた絶滅動物の化石発見地……。

「今の滝川」を離れ、過ぎた時間をゆっくりと遡ってみませんか。そう、空知川の流れるように。(吉住晴美)



十勝道路



旧波止場エリア

120年前、
ここは汽船の港でした。

航空公園



500m
1:42,550



交通の要衝として

石狩川沿いの滝川西地区には、屯田兵の往来のため、1890年(明治23)年に江別や月形からの汽船が運航され、波止場が置かれました。船での運送はすぐに鉄道にとって代わりましたが、同じ場所に今は河川敷を利用した航空公園があり、グライダーや軽飛行機が飛び立っています。

太平洋戦争後に行なわれた河川の切り替え(ショートカット)工事により、河跡湖ラウネ川が誕生。その周辺は、玉ねぎ栽培に適した肥沃な農地になっています。

(高橋一美)



江部乙田園エリア



石狩川穀倉地帯に、
まっすぐな小道が伸びています。



変貌する水郷

なんだか平坦な水田がひろがる江部乙の西側地区、かつては三日月湖が数多くあり、近隣からウグイ、フナなどを求める釣り人で賑わいました。

江部乙の米作りのはじめは1894年(明治27年)、屯田兵の石田安一郎が「赤毛早稲」を熊穴川のそばで

自然流下水を利用して試作を始めたと伝えられています。今は水田が広がる穀倉地帯ですが、開拓時代は農地に点在する泥炭に苦しみました。アジア太平洋戦争後の客土(土壌改良)や土地基盤整備事業などにより、飛躍的に米の増産が進んだのです。(河野敏昭)

憧憬の江部乙

昔は、国道12号を境にして、東の丘陵地帯にりんご並木、西の泥炭地に水田が広がって、岩橋英遠画伯の『道産子追憶之巻』そのものの四季や日常が見られました。秋、西の水田地帯からは稲わらをいっぱい積んだ歩道車が馬に引かれて国道を横切って東へ向かい、東からはりんごの小枝を満載したトレーラーが国道を反対に横切って西へ向かっていきました。厳しい冬を間近に、稲わらはりんごの木の根元に敷かれ、りんごの小枝は石炭ストーブの焚きつけとして重宝されたのです。

歩道車を引く馬も、トレーラーを引く耕

森井智江

耘機も、今は姿がありません。ハサ掛け（刈り取った稲束をハサと呼ぶ横木に吊して天日で乾燥させること）をしなくなったので、稲わらもなくなってしまいました。石炭ストーブなどは、すっかり骨董品です。

でも——春のしろかき、まっすぐに植えられた苗の条、すくすく育つ苗の緑。可憐な稲の花。黄金色の稲穂、夕焼け空を飛んでいくたくさんのトンボたち……。

機械化が進んでも、変わらない農作業の数々。田園を歩くと、ご飯がおいしい秘密が、分かるような気がします。

D うりゅう沼川～第一出島川



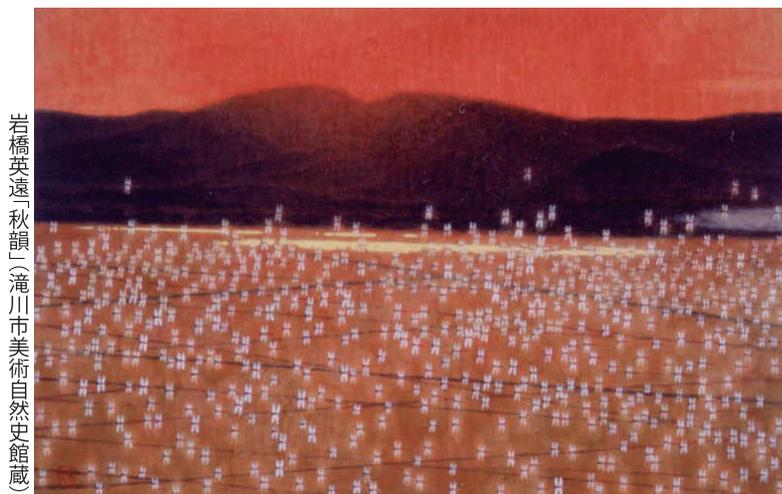
私が子どもだった時分に、祖母から、聞かされた話です。

西11丁目を西の方へ下がると、石狩川に突き当たります。まだ子どもだった祖母が、漬け物石を探しに、その河原まで出かけた時の話です。川の向こう岸には、アイヌの人たちが住んでいました。河原に、口の周りに入れ墨をした女の人たちがいたので、あいさつして断ってから漬け物石を持ち帰ろうとしたところ、彼女たちが、川面に柳の枝が垂れて

いて水面がぐるぐると渦を巻いている場所を指さし、「今度大雨が降ると、ここは大きな川になる」と教えてくれました。

何日か経って、また漬け物石を探しに同じ場所へ行くと、本当にそこが大きな川の水底になっていて、漬け物石は拾えなかったそうです。

「アイヌの人たちは何でも知っているんだよ」と、祖母は幼い私に話してくれました。(森井智江)



岩橋英遠「秋韻」(滝川市美術自然史館蔵)

第一出島川(三日月湖)の生態系 越後 弘

明治期まで、石狩川は原始の姿をとどめて、激しく蛇行・分流しながら流れていました。ここでは、分流したうち東側の川が凸状に急カーブを描き、2本の川に挟まれた中州がちょうど海岸沿いの出島のように見えたので、この名が付いたのでしょう。当時の石狩川は氾濫を繰り返し、入植者たちは水害に悩まされました。治水工事が進み、第一出島川は本流から切り離され、いわゆる三日月湖として取り残されたのです。

広さはおよそ8haで、まわりの田んぼの排水が3カ所から入り込み、水は西端部から石狩川に流れ出ています。水底には川砂利が眠っていて、かつて長期にわたって掘削されたため、最深部では、水深が15m以上あります。

河川保護のために砂利採取が禁

止されると、地域の人たちの美化運動によって周辺が整備され、次第に野鳥観察の人や魚釣りの人たちが訪れるようになりました。

たきかわ環境フォーラムの2010年夏の調査では、4科8種の魚類を確認。うち4種が外来種でした。

水面にはヒシが大きな群落を形成しています。また絶滅危惧種エゾノミズタデをはじめ、多様な植生が生育していることも分かりました。

流れがほとんどないので、春には、北へ帰るたくさんの水鳥たちが羽根を休めていきます。オナガガモ・キンクロハジロ・コガモ・ヒドリガモなど、カモの仲間たちの鳴き声で水面は大いに賑わいます。日本野鳥の会滝川支部の観察では、草原性の野鳥や猛禽類も多く飛来し、春から秋まで気軽な散策を楽しめます。



第一出島川近辺で確認された植物 2010年8月、たきかわ環境フォーラム調べ

イネ科	イヌビエ ヨシ クサヨシ	キキョウ科	ミゾカクシ	タデ科	ミソソバ オオイヌタデ
イラクサ科	エゾイラクサ	シソ科	イヌゴマ	ツユクサ科	ツユクサ
ウリ科	ゴキツル アマチャヅル	スイレン科	ヒツジグサの一種 コウホネ ハスの一種	ヒシ科	ヒシ
オモダカ科	オモダカ	セリ科	ドクゼリ	ヒルガオ科	ヒルガオ
ガマ科	ガマ	タデ科	イシミカワ エゾノミズタデ イヌタデ	ヒルムシロ科	センニンモ
カヤツリグサ科	フトイ			マツモ科	マツモ
				ムラサキ科	ヒレハリソウ

第一出島川で確認された魚類

2010年7月、たきかわ環境フォーラム調べ

コイ科	ウグイ ゲンゴロウブナ タイリクバラタナゴ モツゴ	外来種 外来種 外来種
ドジョウ科	ドジョウ	外来種
トゲウオ科	トミヨ	
ハゼ科	ジュズカケハゼ トウヨシノボリ	



タイリクバラタナゴ(外来種)



ジュズカケハゼ(在来種)



トウヨシノボリ(在来種)



モツゴ(外来種)



ゲンゴロウブナ(外来種)

フットパスは、 気まま旅。

足元は、履き慣れたスニーカーがいい。夏ならスポーツサンダルに膝丈のコットンパンツの組み合わせもあり、だ。お気に入りのTシャツの上に、思い切って派手なプリント柄のシャツを重ねよう。つばの大きなキャップは、少々の雨なら顔が濡れるのを防いでくれる。

ショルダーバッグ、あるいはデイパックの底には、防寒兼用のレインウェアを。ランチボックスと水筒のための余裕を残して、あとは趣味を詰め込めばいい。スケッチブックとコンテ、双眼鏡と野鳥図鑑、氷下魚とワンカップ……。おっと、

欲張りすぎるとフットワークに差し障りますぞ。

この小冊子が紹介したのは、へばったらケータイでいつでもタクシーを呼べるルートだから、冒険とはいえない。でも歩いて初めて見つかるものって、結構たくさんある。新発見の感動は、何も遠くに冒険に行かなくたって味わえるんです。

あちこち道草しながらノンビリ行こう。エコ・フットパスには決まりごととは、なんにもない。

たきかわ環境フォーラム代表
平田剛士



おしゃれて機能的なウェアを選ぶのも
楽しみのひとつ。ナッツを一袋ポケットに忍ばせて、歩きながらモグモグやるとエネルギーが切れない。数字で達成感を得たい人は、万歩計をどうぞ。

丸加高原「自然観察の森」ハンディ図鑑

たきかわ環境フォーラムの「自然調べ隊」が、丸加高原で見られる草花や野鳥たちの姿を、美しい写真とともに解説しました。エコ・フットパスを散歩するときのおともに、ぜひどうぞ!

定価500円

ご注文は ☎0125-24-2447



たきかわ環境フォーラム 新版 ECOフットパス・マップ たきかわを散歩する

初版発行 2007年4月20日
改訂新版発行 2011年3月31日
編集・発行 たきかわ環境フォーラム
<http://ecoup.la.coocan.jp/>
〒073-0034
北海道滝川市空知町2-6-31
滝川市森のかがく活動センター内
☎ 0125-24-2447 (越後弘事務局長)
印刷・製本 広小路印刷株式会社
〒073-0017 北海道滝川市一の坂町西3-1-31
☎ 0125-22-4325



イラストレーション ふかまちあき

© Takikawa Environment Forum 2007, 2011. All rights reserved.

本書の内容を無断で転記・記載することを禁じます。

本書は、2010年全労済地域貢献助成事業と、財団法人北海道新聞野生生物基金の助成(2010年度)によって作成されました。

たきかわECOフットパスへのアクセス

